

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590300119		
法人名	社会福祉法人千寿会		
事業所名	グループホームせんじゆ	ユニット名	さくらそう
所在地	宮崎県延岡市北浦町古江2687-1		
自己評価作成日	平成25年8月25日	評価結果市町村受理日	平成25年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4590300119-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4590300119-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成25年10月10日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「一緒に ゆっくり 楽しく」 ・利用者主体の生活 ・地域との交流 ・環境整備 ・関係機関との連携
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自宅や地域で暮らすような生活を可能にしたい、当たり前のことを当たり前前に生活してもらいたいと考え支援を行っている。利用者の能力を引き出して、一人ひとりの役割や楽しみごとの支援を行い、楽しく笑顔で共に過ごせるよう理念を常に念頭に支援を行っている。利用者の希望に沿えるよう柔軟に対応し、個別の外出やホーム内でゆっくり寄り添うケアを実践している。利用者職員とのほとんどが地域住民であり、地域の情報や人間関係を共有しており、地域に開かれたホームを目指し、地域との交流も活発に行われている。利用者から「ホームの生活にもなじんで、入居してよかった」とうれしそうに感想を聞くことができた。
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	さくらそう	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をユニット内に掲げ、生活の中でも「ゆっくりに、一緒に、楽しく」を念頭に、利用者の方との時間を大切に過ごせるように心がけている。	職員が自分たちで作成した理念を常に念頭に置き、ケアの実践につなげている。支援の基本に戻るものとして理念をとらえている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の理髪店、お店を利用したり、散歩、納涼祭などの行事にて、地域の方との触れ合いを深めている。	利用者と職員のほとんどが地域住民で、なじみの店の利用、小・中学校の体験学習の受け入れや運動会等の行事への参加、法人行事での地域住民とのふれあいなど、地域との付き合いを大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小・中学生の体験学習を利用し、理解や支援の方法を理解して頂いている。また、ご家族、知人の方の面会に助言などを行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、施設の状況報告を行い、ご家族、委員の方より助言、意見を頂いて対応している。	地域包括支援センターの職員に、次回の会議から参加してもらうようにするなど、会議で出された意見や提案を取り入れている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険更新時の認定調査担当者と利用者の情報を共有し、分からないことがあれば相談等をさせて頂いている。	運営推進会議には、市の高齢福祉課の職員と支所の職員2人の出席があり、ホームの取組を理解してもらい、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等で学んだことが生かされている。身体拘束はない。玄関、出入り口は日中開放されている(夜間玄関は21～6時施錠)。	職員は、身体拘束の弊害を理解し、常に目配り・気配りで見守り、安全に配慮した自由な生活を支援している。また、言葉による拘束についても職員間で注意を払っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉による虐待がされないように、職員間で気を付けている。また、疑問を感じたら、注意している。			

自己	外部	項目	自己評価	さくらそう	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点で学ぶ機会が持てていない。今後、学ぶ機会を持ちたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧に内容等を説明し、ご理解を得ている。また、不安、疑問があればいつでも相談に応じるようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加して頂き、意見、要望を出せるようにしている。その意見に迅速に対応している。また、ご家族には面会等で気軽に提言頂けるような関係を心がけている。玄関に苦情箱を設置している。		利用者や家族の意見・要望を出せる機会を設けている。聞いても「何もない」との返事がほとんどであるが、利用者からの出された要望にはできるだけ速やかに対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議、ユニット会議等で意見を求め、協議している。また、コミュニケーションを図り、課題へと取り組んでいる。		毎月の職員会議やユニット会議が、職員から意見や要望を聞く機会となっている。利用者主体のケアを実践するために、見守りながらできることをしてもらおう提案があり、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善手当の支給など、給与水準の向上に向け努力している。今後、人事考課制度を導入し、職員の努力や実績、意欲、向上心を評価する仕組みを検討している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員に、外部研修に参加できるように計画を立て、研修に参加している。研修で学び、知識や技術の向上を目指している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮崎県認知症高齢者グループホーム連絡協議会に加入しているが、情報交換等の活動が十分でないので、今後積極的に交流の機会を持っていきたい。			

自己	外部	項目	自己評価	さくらそう	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に不安にならないような対応に心掛けている。不安、困りごとが言えるような環境づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話を十分に聞き、対応できるよう職員間でも話し合っている。また、面会時には日頃の様子と報告をさせて頂いている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の状況をしっかり把握し、必要なときは医療機関等と話し合い、必要な支援ができるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の方ができる事は本人に行き、お互いに大切な時間を一緒に過ごしているという思いで、本人の意思を大切に、温かな家庭づくりに努めている。			
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状況を報告し、ご家族も一緒に支援して頂けるように、面会時の会話を大切にしている。また、通信等でもお知らせしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆、お正月の帰省支援。また、母体施設への知人の面会支援、手紙、電話での連絡支援、行きつけの理・美容室への支援をし、関係継続の支援に努めている。	帰宅支援や自宅方面へのドライブ、行きつけの店での買い物や理・美容室の利用などの支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者の方の考え、性格等を理解し、利用者同士がお互いに協力し、支えあいながら生活できるように働きかけている。場合によっては、職員が介入し、より良い環境づくりに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	さくらそう	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、本人、ご家族に親しみやすい関係を作っている。また、利用者様と共に母体施設へ面会にも行っている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向をしっかり聞き、職員で話し合い、希望に添えるように努めている。また、申し送りの際に利用者の方の予定を伝え、支援できるように検討している。	利用者が職員に話しやすい環境を作るよう努めている。利用者と職員が一緒にゆっくり過ごす時間を設け、思いや意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ご本人よりお話を聞き、生活の様子を把握し、記録に残して生かせるように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の現状をケース記録等に日々の状態把握に努め、申し送り等で周知している。また、月1回のユニット会議で担当職員が個別に状況等の報告をし、全職員で安心して生活が送れるように支援している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意見を取り入れ、担当職員から意見を聞き、計画作成している。また、月間のモニタリングでご利用者の方の満足度の確認をしている。	個別記録に小さなことでも記録し、職員間で情報を共有して介護計画の見直しやモニタリングを行い、介護計画を作成している。利用者や家族に説明し、介護計画に対する意見や要望を出してもらっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さなことでも記録に残し、日々の状態を職員間で話し、情報を共有しあい、介護計画の見直しに生かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃より利用者の方、ご家族の方を中心に思い、考え、どのような支援が良いか意見を出し合い、対応できるように心がけている。			

自己	外部	項目	自己評価	さくらそう	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の方の差し入れの野菜、魚を利用し、ご利用者の方から料理方法を教わりながら、力を発揮できるよう支援に努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族、ご本人の希望を最優先にし、GHの協力医が週に1度往診している。受診時は情報提供し、適切な医療を受けられるよう支援している。	受診は家族対応が原則であるが、家族が受診対応ができない場合や緊急時は、職員が受診を支援し、家族に報告している。家族が対応する場合は、日常生活の情報を提供している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職が日常の健康管理を行っている。状況に応じて、協力医、法人内の看護師、ご家族に相談または、報告している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にはご家族に連絡を取り、状況把握に努めている。入院時にはフェースシートなどを情報提供し、退院時には、看護サマリーを提供して頂き、スムーズに入退院できるように努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に施設の体制・現状を説明し、状態に応じて主治医、施設、ご家族との話し合いの場を持ち、支援している。	重度化への対応は、これまで家族の希望で併設の特別養護老人ホームへ入所手続きをしている。最期までホームでの生活の希望がある場合には、法人の書式にのっとり、意思確認書を作成している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修、マニュアルでは学んでいるが、実践的な訓練は十分に行えていない為、確実に対応できるとは言えない。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難訓練への参加やマニュアルで確認している。運営推進会議で災害時の協力を行政、地域にお願いしている。非常時の連絡網の確認もされている。	マニュアルを作成し、住民参加の避難訓練を行っている。管理者や職員に消防団のメンバーがおり、地域との連携体制ができています。	夜間の安全を確保するために、夜間を想定した訓練の実施を期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	さくらそう	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の話をしっかりと聞き、個々に応じた声掛けや恥ずかしい思いをしないように、さりげなく支援ができるようにしている。個人情報には外に漏らさないように、研修等で確認している。		利用者を人生の先輩として尊重し、支援が必要なときには、本人の思いや自己決定を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日ごろより会話に努め、意見、意向を確認しながら支援している。話やすい環境づくりに心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何かを行う時は、ご利用者の方の意向を尊重している。個々に合わせた生活リズムで支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容室も個人の馴染みの店に行けるように支援している。服装、下着など、一緒に選択したりしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様に応じた食事形態を提供し、料理のお手伝いに参加して頂いている(盛り付け、野菜切り、片づけ)。また、プランターに野菜、お花を植えて成長を一緒に楽しんでいる。		利用者に応じた食事形態や好き嫌いに対する代替食の提供を行っている。家庭での食事作りと同様に、その日の担当職員が冷蔵庫内を点検し、献立を決定している。利用者も準備や片づけを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の食事摂取量の記入をしている。毎日の水分摂取量は特に注意し、好みの水分で補っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の声掛けをし、自立支援を促している。口腔ケアができない方は職員が必要に応じて対応したり、見守りをしている。また、北浦歯科の口腔ケアボランティアの資料を参考に、今後の支援に役立てて行きたい。			

自己	外部	項目	自己評価	さくらそう	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間ポータブルトイレ、尿器等をご利用者の状態に応じて、対応している。また、時間を見て声掛けをし、脚力低下を防ぐために、体操、散歩を実施している。		トイレ利用者は自分で行っているが、利用者の状態に応じて、時間を見て誘導の声かけを行い、トイレでの排せつを促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘のご利用者の方には、医師の指示で緩下剤を服薬介助している。水分量、運動、ストレスにも気を付けている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	月曜から日曜まで入浴当番の職員を配置し、ご利用者の方のペースに合わせてゆっくり入って頂いている。冬場は柑橘類を入れ、入浴を楽しんでいただいている。		入浴時間は午前中で、利用者は一日おきの入浴となっているが、希望があれば毎日入浴、午後入浴ができるよう、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく、レクリエーション等に参加して頂き、体を動かして頂いている。居室の温度にも気配りし、気持ちよく眠れるように気を付けている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化があれば、協力医に状態報告している。それに伴いお薬の変更があれば、記録に残し、また、申し送り等で確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の方に無理のない範囲で一緒に洗濯物を干し、食器洗い等の家事援助に参加して頂いている。散歩、会話等を行い、気分転換を図っている。ご利用者の方の誕生日を職員、他のご利用者の方、ご家族でお祝いしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、地域でのお店への買い物、理髪店への外出、ドライブ等を行い、外出支援をしている。		近所への散歩や地域の店への買い物など、希望に沿って支援している。事業所の車だけでなく、法人の車を使用してのドライブができる体制になっている。	



自己	外部	項目	自己評価	さくらそう	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の難しいご利用者様は事務所で預かりし、必要時に出し入れしている。ご家族にご報告するため、領収、レシートで管理している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	何時でも電話を掛けられるように支援している。季節に応じて、はがきに書いていただき郵送している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレが汚れていないかこまめに確認し、気持ちよく利用できるように気を付けている。季節に応じた造花を飾ったり、プランターに花を植えたりして、季節感を取り入れている。	共用空間は、利用者にとって十分な広さが確保され、利用者の作品などが展示されるなど、一人ひとりが居心地よく過ごせる空間になっている。天窓の開閉や廊下の出入り口の扉の開放により、風通しがよく、採光にも配慮が見られる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間のトラブルがないように、テーブル、ソファの位置に配慮し、穏やかに過ごせるように努めている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や好みのものを持って来ていただき、安心して生活できるように支援している。また、転倒等がないようにベッド等の配置も動きやすいように設置させていただいている。	広い居室で、ベッド以外は自宅から使い慣れた家具や好みのものなどが持ち込まれており、居心地よく過ごせるよう配慮がなされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室等の手すりを設置している。緊急時には、ベッドごと廊下に出られるように廊下幅を広くし、床面をバリアフリーにしている。			